

## 小学校低学年の部

### 特選 課題図書部門

「ゆうきをもつてつたえたい」

大野町立大野小学校 一年

大たき なつき



わたしは、「ごめんね。」となかなかいえません。でも、じかんがたつと「ごめんね。」といえます。だから、はなちゃんも「ごめんね。」とすぐにいえなかつたから、いつしょだなどおもいました。

はなちゃんが、

「おばあちゃんなんて、きらい。」

といったのは、ゆうちゃんのことをしらないのちゅういをしたからです。でも、それだけじゃなくて、いろいろいやなことがあつたからです。おやつのあとにハブランをわたされたり、おふろあがりにおふろでちゃんとふいてきてといわれたり、がつこうからかえつてきたらすぐにしゅくだいをひろげてといわれたからです。いつもはしていないのに、やらないといけないからいやだつたのだとおもいます。

**【講評】**  
「ごめんね」という言葉の重みや大切さを考え、自分の体験を基に主人公の気持ちに共感しながらも自分の考えが書けているのがすばらしかつたです。

とがあります。そんなことがつづくと、いやなかんじがします。そして、いつしょにいたくなくなつて、だまつてにげてしまします。ほんとうは、にげたくありません。やりたいことをいつて、なかよくあそびたいです。でも、あいてのいけどがなんとかえつてくるかわからないので、ふあんになります。はなちゃんも、「いやだ。」というきもちをつたえるとおばあちゃんがきずつくとおもつて、いえなかつたのだとおもいます。「ごめんね。」といつたり、おもつていることをあいてにつたえたりする」とはたいせつだけど、ゆうきがたくさんいります。なので、わたしもあまりできていません。だけど、ゆうきをもつて、一かいおもつていることをいつてみようとおもいました。どうしてかというと、わたしのあそびたいことがずっとあいてにきづいてもらえないからです。もし、うまくいかなかつたら、おかあさんやおとうさん、せんせいにそうだんしたいとおもいます。

ささき みお 作・絵  
『ごめんね でていい』

文研出版